



やっぱり、家族っていいね。

家族の日 家族の週間

応募期間

令和元年7月1日(月)～9月6日(金)

※郵送の場合は、当日の消印有効

応募点数

「写真」「手紙・メール」それぞれ一人1点まで

表彰

最優秀作品は、令和元年11月17日(日)開催予定の「家族の日」フォーラム(秋田県秋田市)において表彰する予定です。

その他

- 審査の結果は、入賞者のみ本人あてに通知します。
- 応募作品の一切の権利は、内閣府に譲渡されます。
- 応募作品は一切返却しません。
- 応募は未発表かつオリジナルの作品に限ります。
- 応募者の個人情報の取扱いについては、「家族の日」「家族の週間」の展開に必要な範囲で利用します。応募者の同意を得ずに、利用目的を超えて利用したり、第三者に開示することはありません。
- 電子メールによる応募の際、添付ファイルがウイルスに感染されていると作品が事務局に届きませんので、予めご了承ください。
- 入賞者の作品に明記した情報は、「家族の日」「家族の週間」等を展開する中で、必要に応じ、利用、提供します。また、入賞作品は、内閣府ホームページ、「家族の日」フォーラム等で展開します。
- 入賞作品は作品集にまとめ、入賞者及び関係者各位に配布します。また内閣府ホームページ「家族の日・家族の週間」に掲載します。

【審査基準】

- (1)テーマ性(写真、手紙・メール部門共通)
 - ①募集テーマ「家族や地域の大切さ」に則している
 - ②明るい夢や希望が感じられる
 - ③作者独自の家族観・地域観がうかがえる
- (2)表現力(写真、手紙・メール部門共通)
 - ①テーマを十分に表現し伝えている
 - ②見る人、読む人を引き付ける魅力を備えている
 - ③作品としてのクオリティ
 - ④作品のオリジナリティが伝わってくる
- (3)総合力
(写真部門)
写真とタイトル及びエピソードの調和がとれている
(手紙・メール部門)
 - ①文章がわかりやすく、読み手が理解できる
 - ②構成にまとまりがある
 - ③意味を十分に理解している

応募先

応募要領については中面をご確認ください。

【郵送の場合】

〒108-0023 港区芝浦3-8-10 MA芝浦ビル4F
株式会社JACOM内
「家族や地域の大切さに関する作品コンクール事務局」

【電子メールの場合】

kazokunohi01@jacom-inc.com

【PCサイトの場合】

<http://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/family/index.html>
(「家族の日 家族の週間」で検索)

【スマホ・携帯の場合】

右のQRコード、あるいは
<http://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/family/index.html>(「家族の日 家族の週間」で検索)



平成30年度「家族と地域の大切さに関する作品コンクール」より



◀ 応募作品の審査の様子
(写真部門)



▲ 宮腰少子化担当大臣による表彰後の記念撮影

令和元年度

家族や地域の大切さに関する作品コンクール

作品募集中

応募期間

7/1(月)～9/6(金)



やっぱり、家族っていいね。



[11月の第3日曜日]

11月17日(日)は「家族の日」

[家族の日の前後各1週間]

11月10日(日)～23(土)は「家族の週間」

主催

内閣府

お問合せ

家族や地域の大切さに関する作品コンクール事務局

☎ 03-3457-1030 (平日10時～17時)

電子メール: kazokunohi01@jacom-inc.com



やっぱり、家族っていいね。家族や地域で支える子育て

写真部門

テーマ
1

子育て家族の力 (子育て家族の絆、子供と深める家族の絆)

例 家族の団らん、パパの育児、3世代同居家族の様子、親子で一緒に楽しみながら何かに取り組んでいる日常の様子（食事作り、動植物の世話、楽器・スポーツの練習、語らいなど）、出産を控える家族で準備している様子等、子育て家族の絆やあたたかさ、ほほえましさを表しているもの



審査員
カメラマン
渡部陽一氏 ほか

テーマ
2

子育てを応援する地域之力 (地域ぐるみやボランティアで子育て支援)

例 地域と子供達とのふれあいの様子、地域での子育てイベント(お祭り、親子教室、子育てひろば、子供と他世代との交流、地域の見守り活動など)、ワーク・ライフ・バランスの取組(定時退社し子育てイベントへの参加など)、子育てサークルの様子等、地域や社会で子育てを応援しているという姿を表しているもの

応募資格

小学生以上の者（プロカメラマンは除く）

応募要領

作品には、以下の事項を明記の上、郵送、電子メール、またはPC・スマホサイト(内閣府ホームページ)にてご応募ください。

- ①応募テーマ、②作品タイトル、③簡単な解説（エピソード）（100字程度）、④郵便番号、住所、電話番号、⑤氏名（ふりがな）、⑥性別、⑦児童・生徒は学校名・学年、一般は年齢・職業

※2人以上を撮影した写真でご応募ください。
※応募は一人1点で、デジタルカメラ、フィルムカメラまたはスマホカメラ、携帯カメラで撮影した、カラーまたは白黒プリント、もしくはデータでの応募とします。スマホや携帯電話での画像添付による電子メールでの応募も可能です。（3年以内に撮影した写真に限ります。）

賞

募集テーマごとに、最優秀賞1点、優秀賞5点以内。表彰状と副賞。
いずれも内閣府特命担当大臣（少子化対策）表彰。

家族や地域の結びつきの大切さが改めて見直されている今だからこそ、子育て家族の絆と、それを支える地域での子育て支援の大切さを見つめてみませんか。あなたのあたたかい気持ちを作品にして、ご応募ください。

手紙・メール部門

テーマ

子育てを家族で支え合うことの大切さ、家族への感謝などの思いを伝える内容のもの、または、子育てを地域や社会が見守り応援する様子やその大切さを訴える内容のもの

例 子供から親・祖父母へ、兄妹から弟妹へ、夫から妻へ、妻から夫へ、親から子供へ、子育て応援している社長・上司・同僚から子育て社員へ、子育てを応援する地域の方から子育て中の人へ など

応募区分

- 1.小学生の部 2.中学生・高校生の部 3.一般の部

応募要領


作品は、200～400文字程度で、以下の事項を明記の上、郵送、電子メール、またはPC・スマホサイト(内閣府ホームページ)にてご応募ください。

- ①応募区分、②作品タイトル、③郵便番号、住所、電話番号、④氏名（ふりがな）、⑤性別、⑥児童・生徒は学校名・学年、一般は年齢・職業

※スマホや携帯電話による電子メールでの応募も可能です。
※原稿用紙による応募も可能です。

賞

応募区分ごとに、最優秀賞1点、優秀賞5点以内。表彰状と副賞。
いずれも内閣府特命担当大臣（少子化対策）表彰。



「家族の日」「家族の週間」について

内閣府では、子どもと子育てを応援する社会の実現に向けて、子育て家族やその家族を支える地域の大切さについて理解を深めてもらうために、平成19年度から11月第3日曜日を「家族の日」、その前後各1週間を「家族の週間」と定め、この期間を中心として理解促進を図っています。

平成30年度 最優秀賞作品 写真、手紙・メール両部門ともに、その他の入賞作品は内閣府ホームページ「家族の日・家族の週間」をご覧ください。 <http://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/family/index.html>



テーマ1

「6歳の誕生日おめでとう!」
東京都 42歳 男性

作品のエピソード
毎年誕生日に前の年の写真をもって撮影し続けたら、いつの間にかこんな写真に!



テーマ2

「いつもありがとう」
愛知県 43歳 女性

作品のエピソード
向かいに住んでいる生田さんとたちちゃん。家を建てて知り合ったおばあちゃん達です。四人の子供達は孫のように、うちとお二人の家を行き来してます。毎日、この写真の場所(生田さんの玄関先)は夕方犬の散歩?の停留所、ご近所の方々も集まってくるこのお二人の井戸端会議に参加してる我が子たち(なんと雨の日も)。本当に、ここまで多々育児を助けられ両親とはまた違う形で感謝をしてもしきれない気持ちです!

小学生の部 「たのもし妹」
広島県 小学2年生 女子

私は4さいの妹がいます。
すごく可愛い妹です。わたしの妹は300ピースもあるパズルを、さいごまでかんせいさせるがんばりやさんです。
ときどき、自分の思い通りにならない時にかいじゅうのようにあべます。
だけど、わたしは、はなのおねえちゃんなのでがんばっています。
この夏、わたしは、妹とはじめてのおつかいに行きました。わたしはかいじゅうの妹がでたらどうしようとおふあんでした。でも妹はお母さんがいない分がんばらない、と思ってくれてぎゅつとわたしの手をにぎってくれました。それがわたしのゆうぎにわかりました。
そして2人の力をあわせておつかいできました。たのもしと思いました。
かいじゅうのときはいやだけど妹がいてくれるからわたしは強くなります。
「はなちゃんいつもありがとう!」

中・高校生の部 「赤いスプーン」
北海道 中学1年生 女子

おじいちゃんが、私に「ひらがな」を教えてください。本を読んだり、手紙を書く事が出来るようになって、本当に嬉しかった。それなのにおじいちゃんからの手紙には「京香え」「おぢいちゃんより」と書いてあって、間違いを教えてください。でも私とおじいちゃんの二人だけの暗号のような気もした。私が字を粹の中に書いてみてもおじいちゃんには読めなかった。私が箸を上手に使えるようになったとおじいちゃんはスプーンを使うようになった。
「いつのまにか動くの忘れた。」とおじいちゃんと言った。私が学校や友達の事を話すと、大声で笑っていたのに、いつの間にか、顔をくしゃくしゃにするだけになった。お正月に小さな一かけらのお餅をスプーンにのせて口に含んだ。それからスプーンは使われることがなくなった。私はおじいちゃんに心の中で手紙を書く。「おぢいちゃんえ、赤いスプーンは私が使っているからね。」

一般の部 「七夕のお願い」
奈良県 40歳 女性

七夕に、家で笹飾りをして、子供達と短冊に願い事を書いた。4才の息子は、保育園での短冊には『仮面ライダーになれるように!』と書いていた。そんな年頃だ。
「一番の願い事は、笹の一番上に付けるね!」と息子が言った。はいはい、と返事をしながら、何を書いたのかなと覗きに行くと、『かぞくみんなであそぼう!』とある。ん? どうして?うちは家族みんなで暮らしている。よくよく聞いてみて驚いた。息子が言う家族というのは、『結崎じーばーも、あいちゃんも、なっちゃんも、とおる兄ちゃんも、まこちゃんも、りゅうじお兄ちゃんも、ひろこお姉ちゃんも、あいちゃんのお父さんとお母さんも...!』続々出てくる。彼にとっての、祖父母、いとこ、おじ、おば、祖母のきょうだいまで、血縁者がみーんな、『かぞく』で、『いっしょにくらしたい』のだった。
大人の頭で、父方・母方、義理のきょうだい等、色々と壁を作っていたことに気が付いた。みーんな家族で、みーんな一緒に暮らしたら嬉しい!幼い心の純粋な願いに、そうだよ、みんな家族だね!いっぱい嬉しいね!大きなお家がいるね!と話して、とても清々しい気持ちになった。